



2歳児保育で大切にしたい子どもの姿

①心が動けば体も動くー「やってみたい」、夢中になって遊ぶ

それぞれの発達状況にあった遊び方を楽しむ姿

少し背伸びをして挑戦しようとする姿

面白い

不思議だな



発見の喜び、感動

探索を十分に楽しめる環境を

センス・オブ・ワンダーは好奇心や興味・発達を高める。感性を豊かにし、その後の知的発達の土台になる

探索活動が広がり、発見に驚いたり、試したり、工夫したりして遊ぶ姿

②イメージの世界を広げてごっこ遊びを楽しむ

一人一人のイメージを自由に表現する姿

保育者が思いをつないでいく共有を急がない

遊びの中で友達とイメージを共有する姿

イメージをふくらませて、ごっこ遊びを豊かに

あこがれから模倣へ
＝心の中から生まれる再現行為



ごっこ遊びを通して育つもの

・知的発達を促す
→抽象的に思考する力につながる
・他者と共有する世界、やり取りを楽しむ
→ことばの力、関わり力が育つ

行動の見通し、自己コントロール力が育つ

③自己主張のぶつかり合いと、「まねっこ」で広がる共感

ぶつかりあいながら、相手の思いに気づく姿

関心のあらわれから「まねっこ」をする姿

心地よい友達関係へ



信頼できる保育者に気持ちを受け止めて（代弁して）もらい、支えられて葛藤を切り抜け、自己復元する姿

自我の育ちを支える保育者のかかわり

依存しつつ自立に向かう姿に丁寧に向き合う

安心して依存できる大人がそばにいる



「やってみたい」「あんなふうになりたい」と心が動く



他者とのぶつかり合いだけでなく、自分自身とのぶつかり合いからくる葛藤



「～して」という要求に込められた意味（行為への要求と自我の要求）



安心して大人との関係の中で自分の思いを出せるように

受け止めて切り返す

～したかったのね、わかったよ



こうしてみる？先生はこうしてほしいな

まず受け止めることで、子どもは「自分の思いが伝わった」「尊重された」と感じ、気持ちを切り替えやすくなる

気持ちを受け止め落ち着かせてから、気持ちを切りかられるような促しをしたり、保育者の思いを伝える

保育者にも子どもにも必要な「間」

子どもたちの「やりたい!」が発揮できる環境と保育者の関わり

①心を動かされる環境があり、その環境に自ら関わることができる

例)



「やさいのおなか」の絵本と自分のおなかを見比べる

- ・発達に応じた、心を揺り動かされるものとの出会い
- ・興味をもったものに触れたり、手に取ったりできる環境

②十分な時間と空間が保障され、様々なアプローチが認められる

- ・ゆとりをもった計画と、柔軟な対応ができる保育者間の連携
- ・「自ら育とうとする力」を信じる(大人が先に手を出さない)



実際に切ってみる

③安心できる大人が側にいる

- ・「やりたい」気持ちの基盤には安心できる保育者の存在が欠かせない。安心できる保育者の存在で一步踏み出せる



野菜スタンプ
やってみる?

やってみたい

④共感し、共に楽しむ友だちがいる

- ・一人の発見が友達に伝わり、楽しさが広がる
→さらに環境に働きかける意欲や自信につながる



野菜のスタンプで海や魚作り

保育者として最も大切な関わりの基本

・一人一人の子どもの主体としての思いや願いを受け止め、自我の育ちをしっかり支える

子どもは、ありのままの自分を受け止めてもらえることの心地よさを味わい、保育士等への信頼を拠り所として、心の土台となる個性豊かな自我を形成していく。

保育所保育指針解説 第1章総則 | 保育所保育に関する基本原則(1) 保育所の役割

自分を安心して出せる
→自立につながる

・子どもの行動の意味を汲み取る

子どもの行動には、必ず「理由」がある。子どものことば(思い)を聴く。

言葉に表せないことを汲み取るのも保育の専門性

「落ち着かない」「集中力がない」「乱暴」…問題は子どもではなく、環境に。

・子どもの姿を肯定的に見る

複眼で見る。

気付いたことを話し合える同僚性



事例をもとにグループで話し合う

【事例】Aちゃんが気に入っている遊具で遊んでいるとRちゃんが「かして」と言ってきた。何度か「かして」「いや」のやりとりの後、「じゃああとでかしてね」「あしたかしてね」と、かなり譲歩して言っていたが、「いやっ、ぜったいいやっ」と言われRちゃんが泣き出してしまった。

受講生より

「いやだ」という相手の気持ちを伝えるのも大事

本人の気持ちを受け止めつつ、気持ちが変わったタイミングで声掛けをしていく

場所を変えたり、時間も必要



保育者が裁判官になるのではなく、お互いの気持ちを受け止めつつ、伝えていくことが大切。「ポーっと鳴ったら変わりますよ」や時間で区切るの子どもは納得している?思い切り遊べている?Aちゃんの気持ちを否定しないで受け止めることで、気持ちが切り替わるのではないかな。少し時間が経つと自分から「いいよ」と持って来たりすることもある。



講師より

● 受講生の報告書より ●

『保育者も一緒に喜んだり、感動したり、自分の心がワクワクすることが大切である』と感じた。そのためにも子どもたちの「やりたい!」が発揮できる環境、自ら環境に関わり夢中になって遊ぶ環境を作っていきたい。環境の中心は子どもたち。そこを大切にしながら子ども中心の話し合いを保育者同士でしていきたい。

複眼で見ることの大切さを学び、早速園で子どものことを他クラスの職員にも共有しました。1人では行き詰まってしまうところを、こんな良い所があったよ!などと、いろいろな方から違った面を教えてもらうことができました。新たな発見もあり、一人一人の良さを共有できるチームワークの大切を感じました。